

ア 川とその由来 [B-]

- ・ B-1 金目川 ・ B-2 座禅川 ・ B-3 三笠川 ・ B-4 中川
[由来]

かなめ がわ

- 1 ・金目川 (B-1) ・大山山系の箕毛峡谷から発する金目川は、秦野室川橋付近で水無川と合流し、秦野市内を横切り平塚の西部を流れ、上平塚で「鈴川・渋田川」と合流して、虹ヶ浜の河口まで約35 kmの河川です。金目川は南原の辺から下流を通称花水川といいます。南原から南金目までの堤防上は、県道平塚・秦野線が走っています。

昔は、洪水が多く「あばれ川」といわれていました。

ざ ぜんがわ

- 2 ・座禅川 (B-2) ・座禅川は、矢沢の硫黄場をその源として、北へと向かい惣領分の若葉山で字駒ヶ滝の通称「お滝さん」からのと、愛宕裏・黒木沢からの流れに合流して、東へと進みます。芳盛寺前で琵琶からの流れが合流しその水量を増しています。惣領分脇を経て庶子分上・中・下、寺分上・中・下を流れ、下流で中川・三笠川がそれぞれ合流して、金目川へと入ります。その間各地区の複数の小川が注がれています。土屋の南西から北東へと、土屋地区を二分するかたちで流れる、「土屋一番の重要河川」で、その昔はたびたび洪水を引き起こして、まわりの水田を荒らし回ったと言われています。近年、山の切り崩しが各地で進み、雨天時の水量も大幅に増すことが予測されるため、大がかりな河川拡幅整備工事が行われました。河川沿いには、家々で思い思いに草花や樹木を植えてその流れに風情を加えています。が、「ごみ」の投棄も著しく、河川をきれいにする運動を呼びかけています。この川にかかる橋も多く、橋の項で説明します。また、所々に「水門」が設けられて、水田耕作に利用されています。

なお、川名の由来ははっきりしませんが、その昔僧侶たちがこの川のどこかで修行のため、座禅や水行を行っていたと思われます。

み かがわ

- 3 ・三笠川 (B-3) ・早田の入山付近を源として、早田地区を北へと流れ、妙円寺前に出ると、ここから東方へ向かい梨子木窪・榎木窪・上三笠・下三笠・粟久保・鷺坂・鷺田地区を通過して、土屋の主流である「座禅川」の最下流で合流し金目川へと注ぎます。この川は、川幅・水量とも座禅川より規模は小さいが、土屋第二の河川となっています。近年の護岸工事により、コンクリート化されて生態系への影響は大きいと思われます。「三笠川」の由来は、上三笠・下三笠の地名からその名が付いたと思われます。

なか がわ

- 4 ・中川 (B-3) ・熊野神社の裏手北側の字小熊下の「湧き水」を源として、東方へ根岸・宮ヶ崎・六反田・中河原・五反田地区を通過して、寺分大橋の下流で座禅川へと注ぎます。川幅は他に比べて一番狭いが、寺分耕地田の真ん中を流れ、水田耕作には重要な河川として存在することから「中川」と呼ばれていると思われます。